

～ 社会科通信 ～

参院選模擬投票結果特集 33号

2007年9月22日 芝浦工大柏中学高等学校社会科

～ 中一 65% 中二 73% 中三 76% 高一 91% 高二 66% 高三 33% ～
投票率 65.1%、民主 1位 45%

参議院選挙投票日7月29日より一週間以上前、中学18日、高校19日の昼休みと放課後に生徒会役員や高校選挙管理委員が未成年選挙の模擬投票を生徒昇降口で受け付けた。当日朝、各生徒に本人確認・投票用紙が配付され、受付で確認しながら投票が行われた。今年は中学生が部活日となって、例年より投票率が少し下がった。投票率は見出しの通り、高三で学年集会が遅れたなどの事情があったというものの、非常に低い投票率となったのが残念。

投票者確認用紙のアンケートを読むと、公示日から日がたっていないので、学校で配付された社会科通信の政策対比表で考えた人が多いように見える。「自民党は企業の味方だし、共産党は理想ばっか語って現実味がないし、社民党も微妙だし。ということで消去法で民主党」(中二女子)「今は安倍内閣でけっこう問題があるからよくないと思ったけれど、急に政権が変わると大変そうな気がするから、自民党でいいと思いました」(中二女子)「実際に投票しようと思ってみると、意外とどこにするかが難しかったです」(中一女

子)「選挙を早くしてみたかったので、とてもうれしかった」(中一男子)「大人の人もこんな風に参加するんだと思うとなんか楽しかった」(中三女子)「今まであまり選挙があるたびにニュースなどをやっていても関心がなかったけど今回はよくニュースを見れた」(高一男子)「大人になったらこのような選挙を何回もしないといけなくと思うと、大変だと思った」(高一女子)「お金で動くのはやめてほしい。税金の使い道を使用後と前でもっとオープンに公表してほしい」(高二女子)「最初はどの党に入れようか迷ったけど、最終的に決められたのでよかった」(高二男子)「マニフェストを熟読した。他の政党の憲法改悪という言い回しがいやらしい」(高三男子)など多くの感想意見があった。

中学は憲法改正反対が強いのか

本校の投票結果と、模擬選挙推進ネットワークが集計した未成年選挙全体、実際の比例区での結果(得票率のみ)を下の表にまとめた。

中学では共産党や社民党が高いのが面白い。憲法改正反対票が流れたかもしれない。公明党

開票結果	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	国民新党	新党日本	他
中学	20.7%	46.6%	5.5%	12.1%	11.5%	3.2%	0.3%	0.3%
高校	29.2%	44.6%	6.3%	8.5%	6.7%	2.7%	1.5%	0.6%
芝柏中高	25.6%	45.4%	5.9%	10.0%	8.7%	2.9%	1.0%	0.5%
未成年総計	24.8%	37.2%	8.3%	9.7%	7.7%	2.7%	2.5%	7.1%
実際投票結果	28.1%	39.5%	13.2%	7.5%	4.5%	2.2%	3.0%	2.1%

には地域性があるのだろう。中高合計で見ると、実際の大人よりも民主党への期待がかなり高かった、というのが今回の特徴と言えるだろう。

民主党が参院で第一党に！

自民	民主	公明	共産	社民
37	60	9	3	2
国民	日本	諸派	無所属	合計
2	1	0	7	121

各党の獲得議席は上の表で、参議院は非改選議席があるので、それと合わせた参議院議席数が下の表。自民党の37議席は過去二番目に少ない。改正数121の内、定数1の選挙区＝一人区で自民党が6勝23敗だったことが大きな理由である。民主党小沢代表が、参院選勝利のため早くから地方の一人区をまわって支持を訴え、選挙公示後はわざわざ田舎に出向いて箱の上でわずかな人々を前に演説した。安倍首相が都市で大勢の人々を集めて演説をしたのとは好対照だった。この作戦で、民主党の格差是正の姿勢がアピールできたと言えそうだ。

非改選議席を加えた参議院議席数

自民	民主	公明	共産	社民
83	109	20	7	5
国民	日本	諸派	無所属	合計
4	1	0	13	242

参院選の最終投票率(選挙区)は58.6%。前回投票率(56.6%)を2.1ポイント上回った。特に期日前投票が5割増で、1000万票をこえて全有権者の1割占めた。

与党、参院で過半数を失う

参院選の結果、自民党は参議院で第一党の座を民主党に譲り、参議院の与党議席は105で、野党137より少なくなった。衆議院で法案を可決しても参議院で否決されるので、与党が法案

を通すには、衆議院で2/3以上の賛成で再可決をしなければならない。憲法59条にある規定だが、国民世論の反対が強いときにこれができるかどうか、自民党内でも疑問の声が強い。9月10日に臨時国会が召集され、今後テロ対策特別措置法の延長が問題となるだろう。民主党は延長に反対しているので、衆議院での2/3以上の再可決をするかしないかが問題となりそうだ。

突然の辞任で自民党総裁選へ

安倍首相は支持率立て直しのため、事務所費問題で不信を招いた赤城農相を辞任させ、8月27日に内閣改造で第二次安倍内閣を誕生させた。が、9月3日には、組合長を務める組合が不正受給したため、遠藤農相が辞任に追い込まれた。そうした中、安倍首相は、9月10日に参院で所信表明演説を行った後、12日に突然辞意を表明する結果となった。これに伴って、衆院第一党の自民党が後継総裁を選ぶことになる。その総裁選が14日告示されて、福田康夫元官房長官(71)と、麻生太郎幹事長(66)が出馬を表明、二人の対決となった。23日に総裁選、25日に衆参両院の首相指名選挙の予定である。



左)
麻生
太郎
右)
福田
康夫

一方、野党は民主、共産、社民、国民新の4党が、参院で決選投票が行われた場合、小沢一郎民主党代表に投票することを決めた。ただ、憲法67条で衆参両院の首相指名が異なる場合、衆院の結果を優越させるので、次期首相は自民、公明両党が推す次期自民党総裁が就任する。どちらを自民党総裁に選ぶべきか、誰を首相に指名するべきか、各自で模擬投票してみよう。